

今、パーソナル・ヘルス・レコードを どのように活かしていくか



演者

清水 健一郎

株式会社Welby
取締役 Chief Medical Officer

データ駆動型社会が現実のものとなりつつある今、PHR (Personal Health Record) は、単なるライフログの蓄積にとどまらず、患者中心医療を社会に定着させていくための重要な基盤として位置づけられています。医療データやライフログ、マイナポータル等の情報を生活者自身が主体的に扱う時代において、PHRをどのように活用し、患者中心医療をいかに進め、継続していくのかは、医療・ヘルスケアに関わるすべての関係者にとって重要なテーマです。

Welby Lunch Sessionは、こうした問いに向き合うために継続的な知の発信源として、過去2年間で計22回開催してきました。医療・ヘルスケア領域の第一線で活躍する登壇者とともに、PHRと患者中心医療を実践へと進めるための考え方やプロセス、体制、価値観を共有してきました。知見や論点をアップデートし続けるシリーズとして、理念にとどめず、現場での実装につなげるための視点をお届けします。

第27回では、医師であり、製薬・医療機器企業のメディカルアフェアーズでの経験を持つ株式会社Welby取締役Chief Medical Officerの清水 健一郎から、臨床現場とライフサイエンス企業の双方の視点で、PHRの今後の役割、実際にどのように活用していけるのかを医療のトレンドと共に示します。各種のデータ連携が急速に進んでいるPHRの機能が持つ価値とPHRが普及していくにつれて医療現場にもたらす影響を皆さまと共に考えていければ幸いです。

日時

2026年 6月 24日 (水)
12:05 ~ 12:55

場所

ZOOM開催

参加費

無料

※申込締切 : 2026年 6月 23日 (火) 17:00まで

お申込みは **下記の二次元コードを
クリック**または**読み取り**ください

